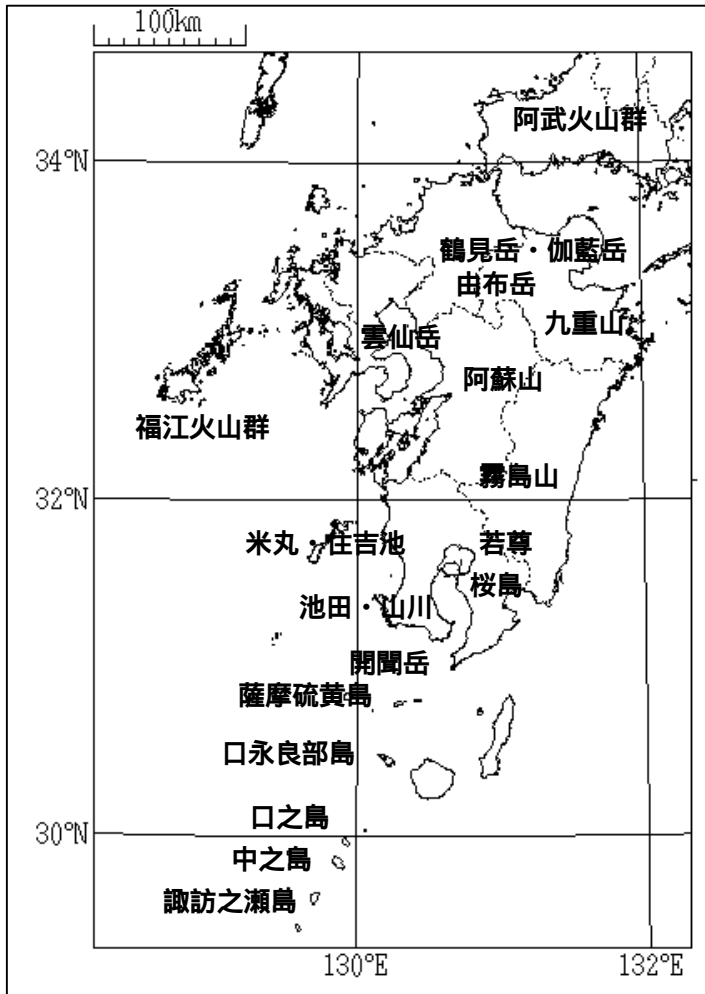


九州地方の火山活動解説資料(平成 17 年 1 月)

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

山口・九州地方の火山



- ：噴火した火山
- ：観測データに変化があった火山
- ：解説を記載した火山
- ：その他の火山

：桜島(火山活動度レベル 2)
南岳の爆発的噴火(以下、爆発)が23日に1回発生しました。体感空振は小で、爆発音はありませんでした。
南岳の爆発は昨年11月18日以来です。

：諏訪之瀬島
噴火が11回発生するなど、火山活動は活発でした。11回の噴火のうち、爆発的噴火は2日と4日の計2回でした。

：阿蘇山(火山活動度レベル 2)
火山活動はやや活発な状態が続きました。中岳第一火口の湯だまりの量は、約8割の状態が続いていましたが、18日には約6割に、21日には約5割に減少しました。湯だまりの色は、緑色から21日には灰緑色に変わりました。湯だまり内では引き続き噴湯現象を観測し、28日には南西側で高さ1～2mの土砂噴出を観測しました。

継続時間の短い火山性微動は、期間中3回発生しました。

：霧島山
御鉢火口内の噴気活動は、火口縁上に時々噴気が上がるなど、やや活発な状態が続いています。噴気高度の最高は26日の火口縁上400mでした。火山性地震の発生は少なく、火山性微動は発生しませんでした。

新燃岳では火山性地震は少なく、火山活動は静穏でした。

：口永良部島
火山性地震が増加し、火山性微動も時々発生するなど火山活動はやや活発になっています。

：薩摩硫黄島
噴火はなく、火山活動は静穏に推移しました。噴煙は白色・少量で最高高度は600mでした。

：九重山、雲仙岳(火山活動度レベル 1)
火山活動に大きな変化は認められず、静かな状態が続きました。

火山情報発表状況

火山名	情報名	発表日時	概要
阿蘇山	火山観測情報第 1 号	7 日 11 時 00 分	火山活動やや活発(火山活動度レベル 2)。5 日の現地観測では、中岳第一火口の湯だまりは、量が約 8 割、色は緑色。火山性地震のやや多い状態が続いている。
	火山観測情報第 2 号	14 日 11 時 10 分	火山活動やや活発(火山活動度レベル 2)。本日の現地観測では、中岳第一火口の湯だまりの量、色は確認できなかった。火山性地震のやや多い状態が続いている。
	火山観測情報第 3 号	21 日 11 時 15 分	火山活動やや活発(火山活動度レベル 2)。中岳第一火口の湯だまり量は、18 日に約 6 割、21 日に約 5 割に減少。色は緑色から灰緑色に変わる。湯だまりの温度は 72 。火山性地震のやや多い状態が続いている。
	火山観測情報第 4 号	28 日 11 時 00 分	火山活動やや活発(火山活動度レベル 2)。本日の現地観測では、中岳第一火口の湯だまりは、量が約 5 割、色は灰緑色。湯だまりの温度は 72 。湯だまりの南西側で高さ 1 ~ 2 m の土砂噴出を観測した。火山性地震のやや多い状態が続いている。
口永良部島	火山観測情報第 1 号	4 日 14 時 30 分	2 日から身体に感じない火山性地震が増加し、継続時間 1 分程度の火山性微動が時々発生。
	火山観測情報第 2 号	7 日 14 時 00 分	2 日から身体に感じない火山性地震が増加し、その後もやや多い状態が続く。継続時間の短い火山性微動が時々発生。
	火山観測情報第 3 号	14 日 14 時 00 分	2 日から身体に感じない火山性地震が増加し、その後もやや多い状態が続く。継続時間の短い火山性微動が発生。やや活発な火山活動が続く。
	火山観測情報第 4 号	21 日 14 時 00 分	今年に入り身体に感じない火山性地震が増加し、この 1 週間もやや多い状態が続く。継続時間の短い火山性微動が時々発生。やや活発な火山活動が続く。
	火山観測情報第 5 号	28 日 14 時 20 分	今年に入り身体に感じない火山性地震が増加し、この 1 週間もやや多い状態が続く。継続時間の短い火山性微動が時々発生。やや活発な火山活動が続く。

火山活動度レベルの新たな導入のお知らせ

気象庁では、昨年度の阿蘇山をはじめとする 5 火山に引き続き、九重山など 7 火山について、平成 17 年 2 月 1 日から火山活動度レベルの提供を開始しました。山口・九州地方の火山では、

九重山、霧島山(新燃岳、御鉢)、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島の 5 火山に導入され、阿蘇山、雲仙岳、桜島と合わせ、計 8 火山で火山活動度レベルを提供することになりました。火山活動度レベルは火山情報に付加して提供する他、気象庁 HP で常時ご覧いただけます。

震源データ等の準拠する測地基準系移行のお知らせ

日本における位置情報(緯度、経度、高さ)のもとになる測地基準系は、平成 14 年 4 月 1 日に施行された改正測量法で、従来の日本測地系から世界測地系(測地成果 2000)に変わりました。

気象庁では、平成 17 年 2 月 1 日より、火山の位置、観測点、震源の位置を世界測地系に準拠したものへ移行しました。これにより、平成 17 年 2 月 1 日以降に気象庁から公表・刊行等される火山の情報・資料は、特に日本測地系にもとづくものである注記があるものを除いて、すべて世界測地系に基づいたものになります。

次回の火山活動解説資料の公表は 3 月 8 日(火)の予定です。

各火山の詳細については、気象庁 HP(<http://www.jma.go.jp/>)でご覧いただけます。

気象庁 HP 「気象・海洋・地震・火山の資料」 「火山の資料」 定期刊行物「火山活動解説資料」

(http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm)